

基本構想（素案）に対する委員からの意見とその対応（案）について

No.	項目	委員からの意見	意見に対する対応（案）	備考
1	第1章 はじめに他	ナンブアカマツは学名に近い樹種を充てる場合に、カタカナでも良いと思うが、象徴として使う場合にナンブの表記は漢字（南部）の方がアピール性がある。	昭和49年に岩手県で開催された第25回全国植樹祭の記念誌（岩手県発刊）や岩手県林業史等を参考にすると「南部」で記載されており「南部アカマツ」とする。	1頁 4行 他
2		新しい元号が発表されていないので、西暦で書かれた方が良い。	新元号施行に伴い、新しい元号に整理。	1頁 18行 他
3	第2章 開催方針 1 開催理念	全体のトーンの中身が森林・林業と一次産業という言葉が出て、ここに閉じ込められている。一次産業に閉じ込めない方が良い。世界を代表する工業が入ってきていますが、水の問題はこれから大事になり、水を供給すると同時に治めていく両方の側面がある。	森林の役割は、一次産業に留まらず広がりを持っており次のとおり修正。 ⇒「ものづくり産業を支える工業用水にも広く利用されるなど、県民生活の向上や産業の振興に寄与してきました。」に記述。	3頁 14行
4		ナンブアカマツの特徴で、ヤニが少なくの表現に内心ひっかかるものがあり、表現を検討されたらどうか。	意見を踏まえ「ヤニが少なく」の記述を削除。 （※「また、県の木に指定されている南部アカマツは」に続く記述部分）	3頁 16行
5		景観を更にプラスしたい。全国民が共有する財産でそこを意識して山を作っていくことは大事。岩手らしさを具体的に示せるのが景観である。	景観が岩手らしさを示せる一つと捉え、次のとおり修正。 ⇒「ブナやミズナラに代表される落葉広葉樹（冷温帯林）が四季折々の彩り豊かな景観を創り出し」に記述。	4頁 2行
6		森林は存在するだけで美しい。それを豊かさとか恵とかの表現されるもの。森林そのものが人間に色々利益をもたらすが、それ以前に存在が美しいのだと、このことを匂わせてもらえるような記述があれば良い。		
7		森林サービス産業のような、大きな森林関連のサービス産業の全体についても、観光、環境や健康につながる。森林が持っている機能だったり、意味だったりする大きな視点についても触れられても良いのではないか。	森林の多面的機能の中に観光や環境にも寄与されている内容を追加。 ⇒「県民の暮らしに潤いと安らぎを与えるとともに、観光産業や健康、教育の分野で森林空間が利用され、森林サービス産業として位置づける動きが出てきています。」に記述。	4頁 3行
8		エネルギーとしての森の役割があっても良い。木炭や薪の文化だったり、水も最大でそこから出るエネルギー、両方がマッチしていかなければ成り立たない。新たな森の考え方を出して良い。	森の役割の一つとしてエネルギーがあり、次のとおり修正。 ⇒「薪やバイオマスを利用した新しい産業が住民生活の安全・安心に役立つなど」に記述。	4頁 6行
9		「県、市町村、林業関係団体及び森林所有者等が連携して森林づくりを進めています。」の表現が、まだ、これを進めていかなければならないという状況ではないか。これが、最大の課題となっているので、「進めています」の表現に違和感がある。	意見を踏まえ次のとおり修正。 ⇒「森林づくりに取り組んでいます」に記述。	4頁 11行

※備考欄の頁・行数は基本構想（案）の本文中の行数を記載